

「Fact Check 福島」が発信した「ドイツ二都市で開催された講演会で福島に関するデマを拡散」の記事によって辛淑玉さんへの偏見を助長拡大するシノドス国際社会動向研究所に対する抗議文

一般財団法人シノドス国際社会動向研究所代表理事 芹沢一也様

私たちは、阪神淡路大震災の被災地、神戸市長田区のコミュニティラジオ局エフエムわいわいでラジオ・シリーズ番組「放射能の時代を生きる」^{*1}の制作・放送に携わった研究者、放送人です。この番組は、福島原子力発電所事故を憂慮し、原子力災害への理解をすすめ、原子力に依存しない社会を展望するために、辛淑玉さんの熱心な呼びかけに応じて制作されました。私たちにとって辛淑玉さんは、阪神淡路大震災の後、被災地に駆けつけ、被災者の支援に奔走してくれた大切な友人の一人です。

貴研究所が主催する「Fact Check 福島」が、その設立趣旨に述べられているように「誤った情報や根拠のない言説の事例を具体的に記録することで、その傾向を把握し、解決のきっかけをつくることを目指し」ていることについては、理解できます。しかし、「ドイツ二都市で開催された講演会で福島に関するデマを拡散」（2018年3月16日付）の記事は、その目的を逸脱し、講演を行った辛淑玉さんを差別扇動者として不当に攻撃するものであるといわざるを得ません。私たちは、同記事を掲載した貴研究所に対し強く抗議します。

なかでも、「これはデマを広めて人々を扇動しようとする活動家たちに、海外の人々が利用されてしまった事例です」と強調する記述は、辛淑玉さんを「デマを広めて人々を扇動する活動家」だと断定し、また、その講演を聴いた海外の人々が「利用された」と一方的に断定しています。このような記述は、講演の内容を冷静にファクトチェックする姿勢とはいいがたく、辛淑玉さんの名誉と社会的な評価を著しく毀損するものです。

辛淑玉さんは、周知のように、虚偽報道によって誘発されたヘイトスピーチを受ける被害者であり、辛淑玉さんへの人権侵害については、BPO（放送倫理・番組向上機構）も認めるところです。辛淑玉さんが受けている精神的・社会的被害の深刻さについては、福島の人々に対するいわれない差別やデマの被害をなくそうという目的を掲げる「Fact Check 福島」の活動にかかわる人々なら、容易に想像できるはずです。

私たちは、被災地で番組制作に関わる者として、つねに被災者や被害者の傷ついた心に寄りそい、いたわることに心を配ってきました。また、関東大震災時の朝鮮人虐殺事件の教訓から被災地で広がりやすい外国籍住民に対する偏見や憎悪の防止、文化的背景の異なる人々に対する理解の増進に取り組んできました。もし、この記事に掲載した人たちが、この記事によって、ヘイトスピーチの被害者である辛淑玉さんが受ける心の傷の深さに気づかないのなら、また、排外主義を助長することに気づかないのなら、そのような人々が、差別や被害に苦しむ被災者の心に、本当に、共感することができるのだろうかと思ひます。

東日本大震災、そして、福島原発事故が発生して以来、辛淑玉さんが一貫して被災者の立場にたって、被災地を支援する活動を続けてきたことは、私たちが、番組制作の過程をとおして十分に知るところです。だから、もし、辛淑玉さんのドイツでの講演の内容が、貴研究所がも

つ事実認識と異なっていると判断するなら、その事実を客観的に指摘すればよいのです。福島原子力事故問題にかこつけて、排外主義に手を貸し、ヘイトスピーチの被害者をさらに鞭打つような愚劣な行為はすみやかに停止すべきです。また、そのような行為は、原発事故の被災者に対する理解や支援を停滞、混乱させる以外の何物でもありません。

この記事の掲載に対して、社会各層から批判や抗議の声が上がりました。すると、その後、同記事は明示されることなく書き換えられ、「ドイツ二都市で開催された講演会で福島に関するデマを拡散」という表題や「これはデマを広めて人々を扇動しようとする活動家たちに、海外の人々が利用されてしまった事例です。」という記述が削除されました。しかし、その削除の理由はあきらかにされず、なにが問題だったかは不明のままです。

わたしたちは、貴研究所が同記事の内容の問題点を自ら明らかにすること、そして、それを掲載したことで辛淑玉さんの名誉と社会的評価、そして、心を傷つけたことに対して、辛淑玉さん自身に十分に説明し謝罪することを求めます。さらに、原子力事故問題の解決をめざす社会的取り組みに混乱と対立をもたらしたことに対して真摯に反省し謝罪することを求めます。

2018年4月5日

*1 「放射能の時代を生きる～物理学の視点から」2012年4月17日放送、「放射能の時代を生きる～経済学の視点から」同年5月24日放送、ラジオ番組と同じ内容の映像番組もネット配信されました。

追記

なお、私たちが上の抗議文をまとめた4月5日に、「Fact Check 福島」上で、代表者の芹沢一也氏の署名で「『Fact Check 福島』へのご批判に応えて」という文章が公表されました。内容は、問題の記事を掲載したことについての反省と改善の方針を述べたものと受けとめました。

その文章の中で「今回、辛氏に批判的な人、とくに排外的な思想をもつ者が、当記事を利用するかたちで攻撃を加速させたこと。そこに加担することになったのは不本意であると同時に、強い反省を抱くものです。」と述べられていることはよいことだと思います。

しかし、攻撃の被害者となっている辛淑玉さんに対する謝罪の言葉はなく、辛さん自身への説明やその声に耳を傾けることは、まだ行われていません。これでは、まったく不十分です。貴研究所は「加害の一端を担った者」としての自覚を持つべきです。よって、私たちは、ひきつづき貴研究所が辛淑玉さんに謝罪すること、そして、今回の経緯を辛さんに十分に説明し、謙虚にその声に耳を傾けることを求めます。

2018年4月6日

山中速人（関西学院大学総合政策学部教授・メディアリテラシー）

金千秋（特定非営利活動法人エフエムわいわい・代表）

朴勝俊（関西学院大学総合政策学部教授・環境経済学）

下之坊修子（映像発信てれれ・代表）

吉野太郎（関西学院大学総合政策学部教員・物理学）

（順不同）